



TITLE:

資料紹介:外国図書大型コレクションについて Verhandlungen des Deutschen Reichstages 1867 - 1933 (ドイツ帝国議会議事録 1867 - 1933)

AUTHOR(S):

CITATION:

資料紹介:外国図書大型コレクションについて Verhandlungen des Deutschen Reichstages 1867 - 1933 (ドイツ帝国議会議事録 1867 - 1933). 静脩 1979, 16(1): 4-5

ISSUE DATE:

1979-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36842>

RIGHT:

外国図書大型コレクションについて

このたび、文部省より昭和53年度の全国共同利用外国図書購入費の配分を受け、下記資料を購入いたしました。

ついては、学内・外の研究者の共同利用に供するため、これらは、附属図書館とセンターに蔵置していますので、御利用くださるよう御紹介いたします。

“Archivio storico italiano”

Giovan Pietro Viusseux (1779-1863) はフィレンツェの学識ある書籍業者で、すでに19世紀初期から学術雑誌出版の経験もあって当時のフィレンツェの出版界ではかなり有力な人であったようである。折しもリソルジメント運動のもり上った最中で彼は祖国愛と学術研究への情熱をいだいて1841年には“イタリア史未刊行資料とイタリア史関係の貴重な文献を収録すること”に重点をおいて、史学雑誌の編集を企画した。幸い当時の優秀な政治家であり歴史家でもあった Gino Capponi (1792-1876) の協力を得て特に中世史に関する文献を主体に編集して1842年に“Archivio storico italiano”の創刊号を刊行することが出来た。そして彼の史料編纂に打込む熱意に誘われて当時のヨーロッパの一流学者達の寄稿も多くなってきた。1855年以後はニューシリーズとしてその内容も：歴史的資料、個人的記録、書評、ビブリオグラフィ、と云うようにより充実した構成になって編集方針にも一段と発展を示してきた。

1864年に G. P. Viusseux が他界してからは R. Deputazione di storia patria per le provincie della Toscana, dell' Umbria e delle Marche, (現在は Deputazione toscana di storia patria) の機関誌となった。そして1925年

以来本誌にふさわしく書誌学的知識をそなえることによって高評のフィレンツェの出版社 Olschki 社で発行、現在に至っている。(途中1940~43年はフィレンツェの Bibliopolis 社で発行) こうして実に百数十年にわたる永い刊行歴を持ってその伝統を維持しているが、その間たえず各時代の著名な史学者、文学者、政治家による論文を発表してきた。寄稿者の名を部分的に思い出してみても Michele Amari, Alessandro D'Ancona, Cesare Cantù, Gino Capponi, Niccolò Tommaseo 等である。多くの歴史的新学説と輝かしい業績をもってイタリア史学研究に貢献することの絶大な本誌はこの分野の学術雑誌中最も権威あるものと評価されている。なお1842年から1941年までに刊行した資料の総索引全3巻が1947年に出版され非常に便利である。

今回の購入は創刊号(1842年)から1977年までのいわゆるバックナンバーで附属図書館に備付けられるが、以後は文学部で購入している。本誌はイタリア史研究者のみならずヨーロッパ史特に中世史の研究は欠かすことの出来ない基本的資料であって、経済史、法制史、文化史の文献も網羅しているので広範囲の研究者に裨益し得ることを期待している。

Verhandlungen des Deutschen Reichstages 1867-1933

(ドイツ帝国議会議事録、1867-1933)

統一国家建設からナチス政権成立までのドイツ帝国議会議事録であり、第二帝政にはじまり第一次大戦を経て、ワイマール体制の成立と崩壊に至

るドイツ近代史の動きを伝える基本的な一次資料である。

近年、ドイツ近・現代史の研究にはいちぢるし

い伸展がみとめられ、その結果、従来の見解にさまざまな角度から再検討が加えられている。ことにナチズムの特性と背景をめぐるでは、コミンテルン・テーゼ、全体主義論的把握にあきたらず、ドイツ史の具体的状況に即して、きめのこまかい論争が展開されており、それにともなってワイマ

ール期、帝政期に関しても新たな研究が蓄積されつつある。本資料は、もとより、ドイツ近・現代史を研究する上での基礎的な資料であるが、ひろく近・現代世界の政治状況、なかならず、革命と反革命、議会制、大衆運動、政党制を研究する上でも、有益な資料である。

La collection des Procès-verbaux de l'Assemblées nationales
de 1789 à 1813, 332 vols. (フランス国会議事録)

1789年の制憲議会以来、フランスの議会は、それぞれ自らの議事録を編集し、国立印刷局で印刷・公刊した。本コレクションは、制憲議会から帝政期の立法院までの各議会の公式議事録の *édition originale* を収集したものである。議事録の内容は、制憲議会28巻（公式議事録の作成は1789年6月17日以後であるが、同年12月10日法によって、5月5日の三部会召集から国民議会成立までの経過についても104頁にまとめて第1巻のはじめに収録してある）、立法議会16巻、国民公会72巻、*Directoire* 期（総裁政府期）の五百人院48巻（第42巻のみ欠）、*Consulat* 期（統領政府期）から帝政期の立法院49巻（1799-1813.12.29まで）、*Tribunat* 61巻（1799-1807.9.18まで）である。なお、このコレクションには、国民公会議員で最初の *archiviste de la République* に任命され、革命期の貴重かつぼう大な文書の収集・整理に尽力した *Armand-Gaston Camus* の指導の下に、共和歴7年（1798-99）から1811年

にかけて作成・出版された *Table des matières, des noms de lieux et des noms de personnes*. 計17巻（1巻約600頁、ただし、国民公会期の *table* は、当時 *table manuscrite* のままで印刷されていなかったため、ここには収められていない。）が含まれている。この *Table* は、1789年から1808年に至る期間の各議事録に収録された事項・人名に関する詳細な索引であり、研究にとって極めて有用な手引きとなるものである。

このコレクションは、革命から帝政期の当時に出版された初版本であり、その後に出版された各種の *texts, documents, collections* の底本となったものというばかりでなく、また、たとえば革命史研究に不可欠な資料とされる *Le Moniteur* に再録されていないパリ各セクションの請願書や建白書などをも含んでおり、フランス革命史研究の最も重要な一次資料として誠に貴重なものといえよう。

Государственная Дума 1906-1917
(マイクロ・フィッシュ)

(ロシア帝国議会議事録. 1906-1917)

帝政ロシアの国会は、^{ドゥーマ}第一次ロシア革命期（1905-1907）の1906年に立憲君主制への移行を目指して創設された代議制立法機構である。1917年2月革命の最中、勅令によって中絶され、以後再び召集されることはなかったが、その後の諸事件に対して影響を及ぼし続けた。十月革命によって成立した人民委員会議（大臣会議）の法令（1917年12月）によって廃止されるまで形式上存続した。

この間、第1国会（1会期）、第2国会（1会期）、第3国会（5会期）、第4国会（5会期）が召集され、速記録が残された。

これらの国会は、この時期のロシアにおける諸階級、諸階層の勢力関係や利害関係を反映し、諸党派の合法的争闘の場となった。

速記録は、十月革命に至る激動期のロシアの社会政治状況を研究する上での不可欠な第一次資料である。